

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091600027		
法人名	社会福祉法人 和歌山ひまわり会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム 向日葵倶楽部 西ユニット		
所在地	和歌山県有田郡広川町南金屋662-1		
自己評価作成日	平成23年6月20日	評価結果市町村受理日	平成23年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3091600027&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成23年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が入居者の方と、寄り添いながら共有した時間を過ごせるように意識している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホーム周辺は、地域の特産品でもあるみかん農家が点在しており、集落の戸数は少ないが、みかん畑の緑豊かな風景が心を和ませている。みかんの収穫時期ともなるみかんの甘酸っぱい香りが季節感をより一層引き立てるであろうことが想像できる。また、ホームへのアクセス道路は小学生の通学路であり、『きしゅう君の家』にも登録している事から、小学生が学校の帰り道に立ち寄り、利用者と交流することが日常的な風景となっている。さらに生活の一場面では、利用者が包丁を握り料理に勤しんでいる光景があり、利用者個々の可能性を最大限に引き出せるような取組みがなされている事がうかがえる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に、西ユニット独自の理念を掲げている。 「寄り添い共に歩く」を実践できるよう、玄関に掲げている。	各ユニット毎に独自の理念がある。現場の職員が協同で作成したという過程もあり、個々の職員にも常に理念に基づいたケアの実践が定着している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の清掃活動に参加している。 きしゅう君の家に登録し、登下校時の学生に声掛けを行なっている。	ホームが開所され約1年半だが、地域の方に理解してもらえよう、地域活動に積極的に参加し、コミュニケーションを図っている。また、自治会活動への参加、民生委員の見学の受入れ等、これからもっとよりよい関係を築こうという高い意識をもっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、グループホームの理念、認知症の理解、支援内容を伝え理解が得られるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、福祉課課長・地域包括、保健師・民生委員・地区区長・家族に参加してもらいサービスの取り組み状況の報告及び話し合いの場にし、様々な意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議が行われており、構成メンバーも行政、地域代表がバランスよく参加している。また、毎回ではないが家族の参加も得ている。状況報告や話し合いを通して出された意見は、サービス向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者とは、運営推進会議以外でも連絡等を密に行なうことで、連携を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議以外にも頻繁に連絡を取り合っている。利用相談の場面においても町を通しての相談や、民生委員からの相談もあり、市町村及び関係団体との連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外研修に参加し、管理者・職員は身体拘束についての知識を持って取り組みに努めている。	研修計画の中で年に1度は必ず『身体拘束をしないケアの実践』をテーマに研修をしている。また、言葉による拘束(スピーチロック)は、特に意識し毎月の職員会議等でも啓蒙している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外研修に参加し、管理者・職員は虐待についての知識を持って取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外研修に参加し、管理者・職員は虐待についての知識を持って取り組みに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書の基づいて十分な説明を行ない、同意の上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で出された内容や、家族の方が来訪時に直接報告したり、電話連絡時に意見交換し、入居者の方の日常生活に反映させている。	利用者の要望に『金魚を飼育したい』があり、その意見を反映し、玄関先に水槽を置き飼育している等、運営に利用者及び家族の意見が反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング内で職員間で話し合いが出来る環境を設け反映している。	毎月の管理者及び職員が参加する会議では、利用者の接遇だけでなく、職員の待遇面等においても垣根の無い意見交換がされており、管理者と従業員のコミュニケーションも円滑に行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の資格取得のための情報提示や資格取得時の勤務等に考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互実習を行ったことはないが、研修などを通じて、他の施設と交流し情報のやり取りを行ったり、他施設の見学、相互訪問を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時思い等、話を聴くようにし、入所後においても不安のない生活が送れるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の不安や要望を聴く機会をすることで、円滑に利用できるような努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時、本人・家族の思いを聞き取り把握し、他のサービスを含め連絡調整を行なうように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることはして頂き、出来ないことを職員が支援していくことを意識し実践に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、家族との時間を設けることで、外出等家族に協力していただけるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、ご本人様の要望があれば、入居前まで行かれていたスーパーや散髪屋等に外出出来るよう支援に努めている。	利用者個々のニーズを把握し、家族または職員の支援により、入居前に利用していたスーパー等の馴染みの場所にドライブを兼ねて出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入しながら、利用者同士が円滑な関係が構築できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了(特養入所・病院入院)した後も、家族の相談に応じたり、入院先の地域連携室と連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの表情や言動を観察し、会議内で話し合い、把握に努めている。	職員間のアセスメントツールとして『できますノート』を用いて情報を共有し、利用者の希望や意向を踏まえながらも出来ることを発見し、自立支援や居心地のよいケアの実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・親しい知人からの聞き取りによって情報収集し、その人の望む暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケース記録等を活用し、一人ひとりの現状の把握に努めている。 有する能力に関しては、「出来ますノート」を作成し、活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報収集・アセスメントを行ない、本人・家族の意向を聴き、介護計画を作成し期間に応じモニタリングを行ない状態変化時は見直しを行なう。	職員によるサービスの実施に留まらず、家族の協力も得て通院介助等の外出支援をサービスに位置づけている。介護計画は、原則6ヶ月毎に見直しを行い、状況変化によって随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細かい記録を残し、会議等で意見交換を行い、模索しながらではあるが、その時々々の最善策を実践に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況に応じて通院・買い物など必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出した際は、地域の人や登下校時の学生達と会話したり、四季を肌で感じられるよう支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、又は家族が希望する医院への受診が可能である。事業所は様々な医療機関との連携を取り十分な医療を受けれる様、支援している。	近隣に往診をしていただける医師があり定期的に診察してもらっている。また、利用者個々の身体状況や希望に応じて主治医も決まっている。その際の受診の支援や調整にも積極的に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が在中時には、報告・連絡・相談をし、また不在時の時間帯であっても常に24時間連絡を取れる体制にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の治療プロセスや退院後のケアなどについて連絡を取り合うなど、地域連携室側との連携を図れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を十分に聞き、医師、看護師を交えて情報の共有を図り、連携を密にしている。本人にとって一番適切な紹介、または、今後重度化していった対応について適宜家族と話をしている。	入居時、家族には重度化や終末期の対応について説明を行い、家族及び利用者に安心して入居していただけるような体制をとっている。契約中の入院や退院後の行き先についても家族や関係機関等と連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、発生時にはすばやく、各機関や関係者との連携が取れる仕組みをとっている。救命救急の訓練にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、消防の指導を受けている。又、災害時の対応マニュアルに地域への応援要請も加えており、協力して頂ける体制をつくっている。	地域の区長のとの関係も良好で、役員交代があっても継続した連携が図れている。また、ホームが高台にあることから地域の避難場所としての働きも期待されており、今後、地域の方のために食料の備蓄も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や人権は、誰もが持っている権利であり、人として、尊重されて当然の事である。職員は、利用者が、人格否定される様な声掛けをしていない。	利用者の『呼び方』は、利用者本位に考え、表情や反応を観察し、利用者にとって心地よい呼び方をしている。個々の職員の思いではなく、職員共通の認識で実践している。また、『言葉による拘束』は機会がある度に啓蒙している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で、利用者が本人の意図を示したり、自己決定出来る様な言葉掛けを工夫し、自由に表現できるように個別に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位ではなく、利用者自身が主体的に行動出来る様、支援し、体調や気分等に十分に配慮しながら利用者の希望を尋ねたり、相談しながらその人らしさを大切に過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の中には、若い頃はおしゃれすらできなかったという方も多くおられる。着たい服を着、時には介護者とおしゃれについて話したり、共に楽しんだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食べ物を聞き出し、メニューに取り入れられたり、季節感を味わえるように工夫している。調理の下ごしらえや後片付けを負担にならない程度に手伝って頂き、食事を楽しんで頂いている。	利用者個々の『できること』を把握し、その日の体調や気分を観察しながら食事の準備から後片付けまで、自然にお手伝いしていただけるよう対応している。メニューも調理担当者が、利用者の希望などをききながら献立をたてている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表・水分チェック表を利用し各利用者の状況を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや誘導を行い、利用者の状態に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うなどの支援を行っている。	出来るだけおむつを使用しないように、利用者個々の排泄パターンを把握し、適時の誘導と声かけを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、飲食物の工夫や適度な運動を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望があれば毎日でも入浴して頂ける。本人の希望に合わせて入浴を楽しめる様に職員同士連携を取っている。	365日いつでも入浴でき、時間も夜7:00まで入浴できる体制をとっている。実際に毎日入浴される利用者も居られる。入浴を拒否される方には、意向を尊重しつつも、何度か声かけをするなど状況により対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠のパターンは様々である。一人ひとりの状態に合わせ、眠れるよう支援している。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報一つにし、全職員が閲覧でき、服薬の目的やリスクについて理解している。服薬に変化があった場合は、利用者の変化に気を配り、細かい記録を残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある生活を送って頂ける様、その人の趣味や嗜好を知り、時には外気浴などで気分転換をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の希望に沿って、職員と共に買い物・散歩外出へと出かけたり、また家族等の協力を得て馴染みの床屋・温泉・外食へと出かけられるように支援している。	利用者個々の外出は、家族の支援や職員の支援により実施されている。また、ホーム全体の外出行事として、お花見を実施している。	利用者の希望は多様であり、まだまだ実現できていない外出の企画も多くあると職員は感じている。現段階で可能と思われる企画を抽出し、実現に向けて家族や地域の人々の協力を得る取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に合わせた金銭管理を支援できるよう努めているが、ほとんどの方は事務所にて行っている。買い物などで外出される際には、本人に財布を渡し精算時には自分で支払われるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者もいる。利用者から希望があれば、電話を掛けるなどの支援を行っている。 年末には年賀はがきを用意し、希望がある方は自ら書き、投函する支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「和」を基調とした空間を作り、温かみのある共用スペースにこだわっている。また、季節の花などもさりげなく飾り、皆で楽しんでいる。 空調の調整やテレビの音量等にも留意している。	毎朝、利用者とともに掃除を行っており、ホーム内も常に清潔が保たれている。また、中庭には、利用者に教わりながら、今の時季では、トマト、きゅうりなど季節の野菜を作っている。室温も扇風機を利用するなどエコにも配慮しているが、入居者に合わせて適温を保つことを優先している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには和室を設けたり、食事用の椅子の他に2人掛け・3人掛けソファを設置している。その時々で利用者が居場所を選択し気の合った者同士で快適に過ごせる様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物や好みのものを自由に配置していただき、快適に過ごせるよう配慮している。	入居前の生活を出来るだけ継続できるように、思い出の写真等を飾ったり趣味活動に配慮された居室空間が提供されている。家族と利用者の共同作業でお部屋のコーディネートをお願いしている。	利用者によって居室の調度品が全く無い方もおられたり差が出てきている。家族の支援体制によることも大きな要因だが、利用者の快適な生活の実現のためにも継続的な家族への働きかけを行いながら場合によっては家族に代ってのホームの取組みを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を保障した上で、利用者が自由に動けるよう自立した生活ができるよう配慮している。		